

能登を支える東北の会（仮称） 2024年1月の活動報告

雄勝町の雄勝地区を考える会 / 宮城大学 特任助教 阿部晃成
2024年2月1日

自己紹介

阿部晃成（あべ あきなり）

- 宮城県桃生郡雄勝町生まれ
（平成の大合併により石巻市雄勝町）
- 東日本大震災 当時22歳 現在35歳
- 一晩の漂流経験,復興まちづくりへ参画

所属

- 公立大学宮城大学 特任助教
地域に関わる人材育成プログラム担当
- 陸上自衛隊 予備自衛官補



目次



1. 発足の経緯

- ① 岩手県大槌町の「MOMIJI」と花巻市の「雨風太陽」の動き
- ② 「雨風太陽」代表の高橋博之の動きと反応



2. 石川県内での活動

- ① 被災地での物資の提供運搬・炊き出し
- ② 住民発の復旧・復興に向けた動き出し
- ③ 二次避難者へのヒアリング



3. 活動から見えてきたこと

- ① 一時避難所の半強制的な空洞化
- ② 二次避難による地域コミュニティ崩壊
- ③ コミュニティの力

1. 発足の経緯

岩手県大槌町「MOMIJI」

- 東日本大震災をきっかけにできたジビエ肉の生産・加工会社所属の多くは大槌町の被災者
- 能登半島地震発災後、すぐに準備4日には大槌町の「災害支援車両」
- 5～20日まで炊き出し・物資提供



雨風太陽(株)noteより引用
https://note.com/pocket_marche/n/nbba08f3e6d50

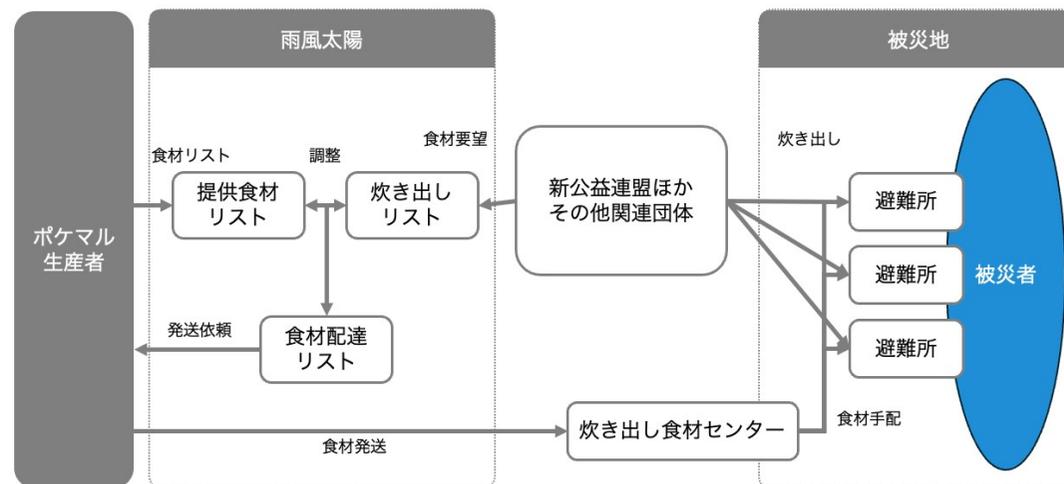
1. 発足の経緯

岩手県花巻市「雨風太陽」

- 東日本大震災をきっかけにできた一次産品生産者と消費者をつなぐCtoCコマースシステム「ポケットマルシェ」を運営
- 前述の「MOMIJI」の動きを受け、代表の高橋博之が支援活動を展開
- 5～30日まで炊き出し・物資提供人材の橋渡しを行った



◆ ポケマル炊き出し支援プロジェクト



雨風太陽(株)公式HPより引用

<https://ame-kaze-taiyo.jp/news/2024020109003260/>

1. 発足の経緯

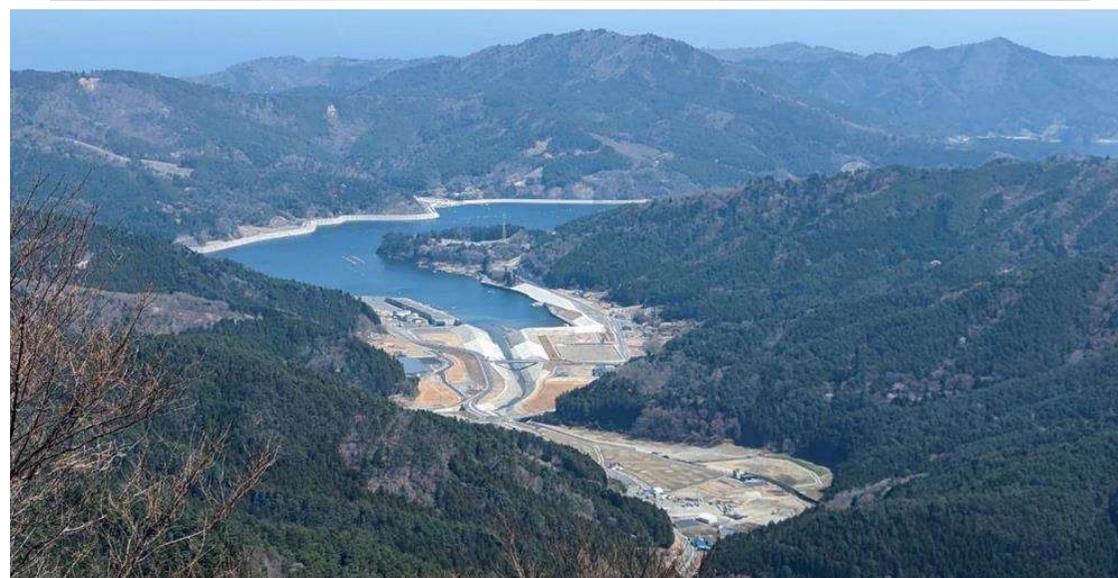
能登を支える東北の会（仮称）

- 「雨風太陽」の高橋博之が声かけ

「“全部は救えない、取捨選別を”
なんて言説がすぐに出るなんて
東日本大震災ではなかった」

「東北の復興経験を
良いも悪いも正直に伝えよう」

- 東日本大震災の現場経験者や、
プロボノ系などが15~31日で参加
（阿部晃成もここで参加）



2. 石川県内での活動

被災地での炊き出し・物資運搬

- 輪島市・珠洲市・能登町・穴水町
などを中心に炊き出し活動

53名の生産者の食材、計1,191kgを
用いた炊き出しを1,380名に提供

- 東北の被災地からの支援物資
金沢市内に滞留している物資

被災各地への運搬運搬
(現地の配送システムが停止中)



2. 石川県内での活動

住民発の復旧・復興に向けた動き

- 炊き出しなどの支援活動をしつつ
避難所の方々へのヒアリング

- 炊き出しなどでつながった現地の
被災者との復興に向けた勉強会
(オンラインでも配信)



2. 石川県内での活動

住民発の復旧・復興に向けた動き

- 炊き出しなどの支援活動をしつつ
避難所の方々へのヒアリング

「土地がなくて仮設もいつに…」
「二次避難でどんどん人が減る」

- 炊き出しなどでつながった現地の
被災者との復興に向けた勉強会
(オンラインでも配信)
「待ってちゃダメだ,動き出そう」
「二次避難で離れても、
輪島の人って言えるように」



2. 石川県内での活動

住民発の復旧・復興に向けた動き

- 炊き出しなどの支援活動をしつつ
避難所の方々へのヒアリング

「土地がなくて仮設もいつに…」
「二次避難でどんどん人が減る」

150名居た避難所が、
数日後に10名まで減った。

避難所の残った方は、
バスでつれていかれた二次避難者が、
どこに行ったか分からない



資料：東日本大震災の事例：雄勝町の被災と被害

旧市町	石巻市	河南町+ 桃生町	河北町	牡鹿町	雄勝町	北上町	(参考) 女川町
住宅数	41,996	7,714	3,494	1,853	1,637	1,151	4,568
全壊・流失	18,593	183	569	1,031	1,348	633	2,937
仮設住宅	4,174	1,292	847	445	161	234	1,294
全壊率	44%	2%	16%	56%	82%	55%	64%
仮設/全壊	※22%	706%	149%	43%	12%	37%	44%
残存+仮設	66%	114%	108%	68%	27%	65%	64%
町外避難率	※34%	—	—	32%	73%	35%	36%

石巻市の旧市町と比較すると、
雄勝町は全壊世帯が多く、仮設住宅数が少なかった
仮設住宅の時点で**3/4の世帯が広域避難を強いられた**

2. 石川県内での活動

二次避難者へのヒアリング

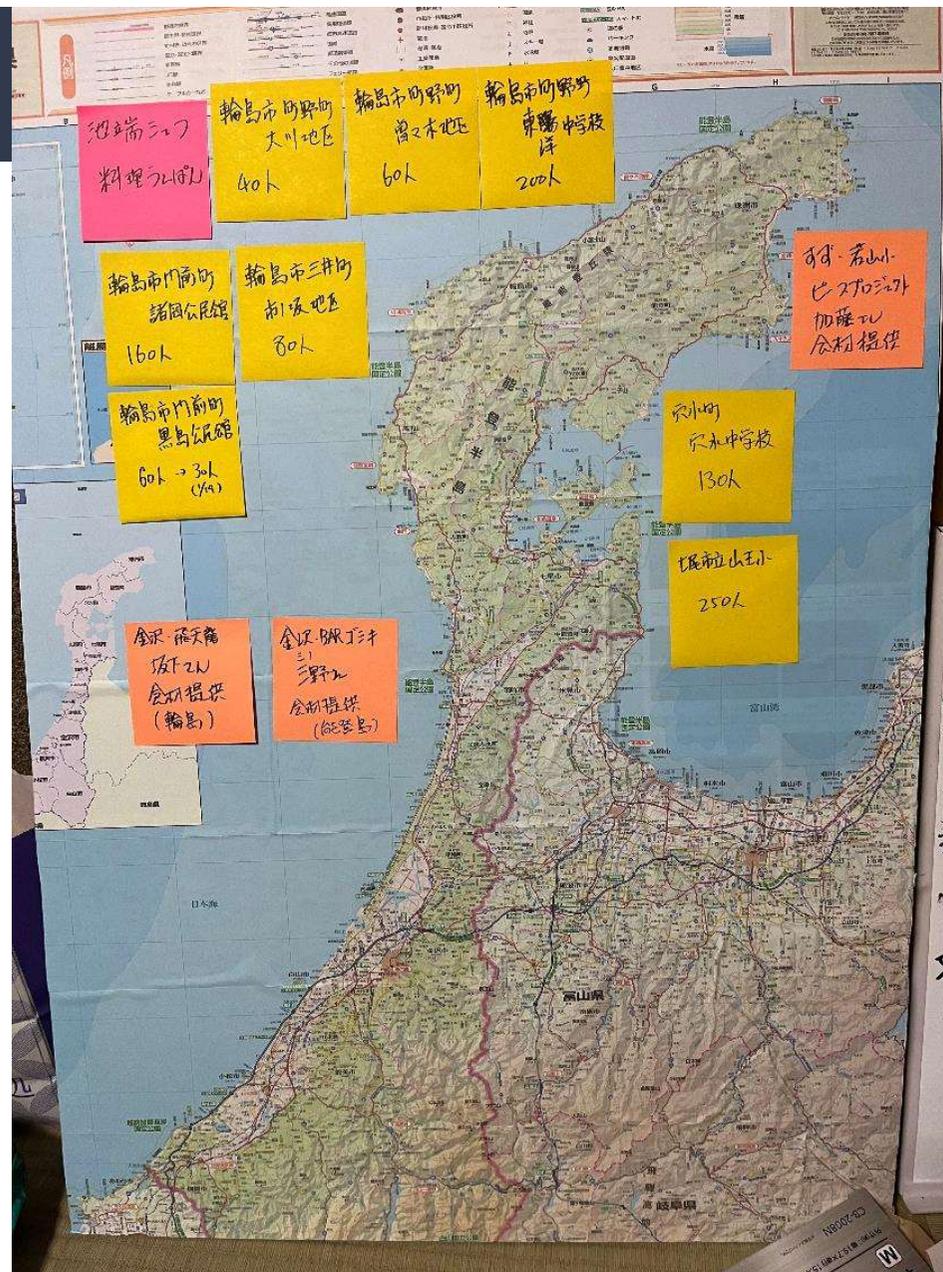
- 小松市 栗津温泉
輪島市深見町の大半の114名が避難
温泉各地の5つのホテルに点在
自治会は機能しており、
三次避難についても掌握
深見以外の避難者は小集団の様子
- 加賀市 加賀百万石ホテル
珠洲市高屋町の40人を除いて、
てんでばらばらに避難
高屋を除いてコミュニティなし？
8度の移動をして25日到着の方も



3. 活動から見えてきたこと

一時避難所の半強制的な空洞化

- 輪島市町野町曾々木地区
150→40→10名
二次避難先不明、区長も避難
避難所に支援スタッフなし
二次避難所からのUターン者も
- 深見町7つの地区 118→4名
ほぼ全町避難、自治会は機能
- 珠洲市高屋町
100→9名
二次避難先は3~4箇所分散
一次二次をつなぐ若手が存在



3. 活動から見えてきたこと

二次避難で地域コミュニティ崩壊

- 「ミステリーツアー」
 - 1次避難所
 - 1.5次避難所or能登空港or小松空港
 - ここで二次避難先が伝えられる
 - 2次避難地域の各ホテルに分散
 - 各ホテルごとにルールが違う
 - 行政からの他住民の情報提供なし
- 受入先の小松市サポートデスク
 - 我々も誰を受け入れてるのか不明
- 担当の石川県庁「観光企画課」
 - 避難元地区と避難先の名簿→なし
 - 「詳しいことはJTbの方が…」



3. 活動から見えてきたこと

コミュニティの力と支援活動

- 全町避難の深見町地区で勉強会
 課題1 「出来ることがない」
 問いかけ「何をしたいですか？」
 「久々にブリを食べたい」

支える会が地物の寒ブリを用意
 現地のNPOと小松市が協力

調理は避難者 + 受入先の住民が協力



受入先の太鼓保存会との交流へ

第3種郵便物認可

能登の寒ブリ 避難者に活力

住民にも振る舞う

発起人は、奥能登の活性化に取り組みNPO法人「つぎ組」(輪島市深見町)の佐藤克己理事長(67)で、部屋にこもりがちな被災者が交流する場として初開催した。法人メンバーを通じてブリを仕入れ、知人で鮮魚店を営む熊野亮平さん(72)＝珠洲市正院町正院11番地＝が介した。

熊野さんも自身の鮮魚店が倒壊し、小松へ避難している。粟津町婦人会員のらを手借りて、刺し身やみそ汁、大根なますを調理した。会場には、小松市が2次避難者にも振る舞う

小松で交流会



寒ブリを味わう被災者 小松市の粟津町会館

難者のために「避難者サポートデスク」を設置している粟津町会館の一室や京所を借りた。

粟津町内会や、小松を拠点に被災地支援を行う市民グループ「チームこのへん」がビールや地酒を差し入れ、被災者は酒を酌み交わしながらブリを堪能した。

粟津町公民館の島崎大輝館長(46)も参加した。

輪島市深見町の干場亮平さん(62)は「みんなの楽しそうな顔を見たら心が和み、被災していることをいっときでも忘れられる」と話した。同町の山下幹恵さん(67)は「連う宿の人とも集まって世間話ができ、お祭りみたい」とほほ笑んだ。

佐藤理事長は今後も、被災者が集まり能登力キや能登牛などを味わう会を企画する考えで、「避難所でもへこまず、士気を高めていきたい」と語った。

同社にまで、これまでアクリル製品製造を委託していた協力企業が金沢市にあり、その事業や人

県九合陶磁器商組合連合会は28日、大文字町の料理店「小六庵」で懇談会

輪島塗や珠洲焼の交

輪島塗や珠洲焼支援

支え合って ともに

3. 活動から見えてきたこと

コミュニティの力と支援活動

- 全町避難の深見町地区で勉強会
課題2 「仮設住宅用地の不足」
東北での「住民発の用地の提供」
航空写真,被災状況,ハザードマップ…
→地滑り専門家への相談

地権者の確認と意向確認,リスク許容
数日で輪島市へ用地提供の申出実施

ただし1月末現在、市から返答なし

2月来訪時に市への働き掛けを予定



3. 活動から見えてきたこと

コミュニティの力と支援活動

- 全町避難の深見町地区で勉強会
課題1 「仮設住宅用地の不足」
東北での「住民発の用地の提供」

事例
提供

専門
知識

航空写真,被災状況,ハザードマップ
地滑り専門家への相談

地権者の確認と意向確認,リスク許容
数日で輪島市へ用地提供の申出実施

ただし1月末現在、市から返答なし
2月来訪時に市への働き掛けを予定

発信
協力



まとめ

- ・ 地域コミュニティのコアが見えない

現地の一次避難所は過疎

二次避難所はてんでばらばら

一方で集まれば出来ることはある



コミュニティ再接続に向けた施策を！